

令和 5年 2月 17日 (金)

# みらいとびら 未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第157号 支援部・福井 健二

早いもので、今年度もあと1ヵ月程になりました。先月は、大寒波が襲来して、交通途絶が発生し、大混乱となりました。これも、夏の豪雨と同じく異常気象の一つなのでしょう。また、コロナの発生から約3年が経過しましたが、まだまだ気を緩めることはできません。今年インフルエンザも流行して大変な冬となっています。3年生はもうすぐ卒業、1、2年生はそれぞれ進級と、新しいステージへと進んでいきます。それぞれの場所で自分の持ち味を出して、活躍することを願っています。

これからは、暖かい日、寒い日を繰り返して、春が近づいてきます。どうかお体にお気をつけてお過ごしください。

今回は、『生きる力』、『社会人として必要なこと』について考えてみます。

## ① 『生きる力』

人によって考えることは違いますし、違って当然です。文部科学省の定義では、社会や生活が大きく変わると予想される時代に変化を前向きに受け止め、人生をより豊かにしていくためにどうすべきか主体的に考え出すことができる力と定義されている。つまり、知(知識)・徳(人間性)・体(健康)を伸ばしていき、自分で考えて行動して、変化に対応していく力ということです。

ちょっと視点を変えて、直感的・現実的に考えてみます。生きるためには、まず食べることが必要です。食べ物を買うにはお金が必要です。税金、家賃、光熱費も必要です。そのお金を得るためには仕事をしないとけません。また、仕事を続けるためには、「生きがい」が必要です。「生きがい」も人により違います。趣味、家族、ペットなど。仕事自体が「生きがい」という人もあるでしょう。趣味、家族、ペットにもお金が必要です。働き続けて、収入(お金)を得なければ、生きてはいけません。

本校が掲げている『生きる力は働き続ける力』とは、子どもたちだけではなく、我々社会人にもとっても重要であることがよくわかります。引き続き、子どもたちが、本校の学びの中で、知・徳・体を習得していき、『働き続ける力』を伸ばしていけるように、かかわっていきたいと思います。

ただし、何よりも、生きていくには、健康が一番であること。体調を崩したり、病気になっては何もできません。健康でなければ、食べること、働くこともできません。

『生きる力』は“健康であること”ではないでしょうか。

## ② 『社会人として必要なこと』

### a) 自分で考えること

何事もまずは自分で考えたうえで、質問する・相談する・報告することが大事

### b) 前に踏み出す力

失敗することを恐れずに、物事に積極的に取り組むこと、挑戦することが大事

### c) 仲間と協力すること

自分一人では、出来ることは限られています。仲間と苦労や悩みを共有したり、協力、助け合うことが大事

できなくても、まず、意識することが大事です。以上のことを、意識するだけでも行動は必ず変化します。まずは、意識してみてください。

今後も、高特の生徒たちの成長をサポートしながら、一緒に楽しく学校生活を送っていきたいと思っています。

## ～ 最近の気になる話題：ケアリーバー ～

ケアリーバーとは児童養護施設や里親家庭などの社会的養護の経験者のことを指す。「ケア」(care。保護)と「リーバー」(leaver。離れた人)を合わせた造語である。日本においては、原則として18歳に到達すると社会的養護から離れて自立を求められる。しかし、施設等を離れても頼れる大人が身近にいないケースが多く、生活苦に陥るケースが後を絶たない。こうした実情は18歳の壁とも呼ばれている。

2024年施行の改正児童福祉法では、施設などで暮らす年齢上限を撤廃し、施設や自治体が自立可能と判断するまで支援が可能になる。厚生労働省は虐待や貧困などで保護され、児童養護施設や里親の家庭で暮らす子どもや若者が支援を受けられる年齢の制限を撤廃する方針を固めた。現在は原則18歳、最長でも22歳で自立を求められるが、年齢ではなく自立可能かどうかで判断し、大人向けの支援に引き継ぐまで継続的にサポートを受けられるようにする。